

「研究大学強化促進事業」令和2年度フォローアップコメント

機関名	フォローアップコメント
京都大学	<ul style="list-style-type: none">○多くの指標が成果目標に向かって増加しており、全体として順調に進捗していると判断される。○将来構想「多様な人材の育成・確保」に向けた取組(外国人研究者支援体制の構築、国際アドミッション支援オフィスの設置、若手教員割合に関する目標達成に向けた取組方策の策定、博士課程人材を含む次世代研究者支援等)を着実に推進していることは評価される。○国際共著論文率は増加傾向にあるが、産学共著論文率とTop10%論文率の更なる増加に向けて「融合チーム研究プログラム(SPIRITS)」や学内産連特区制度などの取組に一層期待したい。○「日本のURAの先導的モデル大学」として国内のURA制度定着のために、同大URAが中心的な役割を果たしていることは評価される。今後、その成果を学内外で水平展開・活用されていくことを期待したい。

令和元年度フォローアップ結果への対応状況と今後の事業展開について

機関名	京都大学				
統括責任者	役職	学長	実施責任者	部署名・役職	研究担当理事
	氏名	湊 長博		氏名	時任 宣博

令和元年度フォローアップ結果

- 事業全体が極めて順調に進捗していると判断される。今後も成果と取り組みの継続に期待したい。
- 成果をあげている「融合チーム研究プログラム (SPIRITS)」において、従来に加えて「人文知の未来発信」重点領域を新設して京都大学ならではの知識を広く世界に発信する取り組みは高く評価される。
- 既存の海外拠点 (ASEAN、欧州) に加えて、新たに北米拠点とアフリカオフィスを設置するなど、国際交流活動を一層充実したことは、学術交流活動のみならず学生の学修の質と幅の向上に期待したい。
- 大学の戦略・企画調整のための戦略調整会議 (カウンスル) をサポートするプロボストオフィスへの URA の兼務、エビデンスベースの IR 機能の一層の強化及び部局へのデータ提供スキームの高度化、独自に開発した京大 URA 育成カリキュラムの継続実施及び学内外への情報提供、独自の WEB サイトや SNS を用いた URA の活動成果等のタイムリーな発信などを実施していることは高く評価される。
- これらの幅広いマネジメント及び取り組みの成果が、日本の URA システムの先導的モデル大学として実行・展開されていることが高く評価される。

将来構想の達成に向けた現状分析

将来構想 1 【越境する「知」「人」を生み出し循環させる大学】

① 令和元年度フォローアップ結果への対応状況

研究力強化、社会的課題解決に向けて、国際共同研究、学際研究、人文・社会科学研究、産官学連携といった多面的な取組を組み合わせた支援プログラムを URA「全学一元化体制」のもと着実に実施した。特に令和元年度からは研究及びその支援の継続性を見据え、研究データのオープン化や学際研究の定着化に向けた体制整備、新たな財源 (寄付金) を使った若手研究者向け支援などの環境整備にも着手している。

② 現状の分析と取組への反映状況

- 【新たな学術領域の創生】 成果を上げている「融合チーム研究プログラム (SPIRITS)」等の学内ファンドの運営に加え、学際融合教育研究推進センターに新たに制定した、より柔軟に学際研究グループを支援する「ライトユニット制度」と強固に連携。本事業による学内ファンドで新たに生まれた研究グループを含め、10 件のライトユニットを新設し継続的な支援を行っている。
- 【新たな学術領域の創生】 研究データのオープン化の実装を目指し、全学調査及びワークショップを開催した。それらを踏まえ、京都大学「研究データ管理・公開ポリシー」を策定した。研究論文エビデンスデータの機関リポジトリでの公開を可能とする体制を構築している。
- 【国際協働の深化】 成果を上げている海外拠点の運営や、本学 WPI アカデミー拠点 (iCeMS) との

連携による On-site Laboratory の企画・設置に加え、海外大学との戦略的パートナーシップ構築の支援を事業化した。事業化により担当 URA を配置し PDCA を回すことで効果的な支援の継続を実現した。具体的には、欧州拠点が管轄する欧州地域で、ボルドー大学（フランス）、ハンブルク大学（ドイツ）、チューリヒ大学（スイス）、ウィーン大学（オーストリア）の4校を本学の「戦略的パートナー校」として認定した。加えて ASEAN 地域外とはなるが、国立台湾大学（台湾）を「戦略的パートナーシップ校」として認定するにあたり、URA として支援を行った。また、ASEAN 拠点では、日 ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点 (JASTIP) の第二フェーズ (令和2年度から令和7年度) 継続を結実した。

- 【国際協働の深化】国際交流活動による学生の学修の質と幅の向上に向けて、北米拠点では、ワシントン DC 近隣における国際機関で本学の学生が研修プログラムを受ける「Kingfisher Global Leadership Program」の実施を支援している。またアフリカオフィスでは、学内関連部局と共に、2020 年度「大学の世界展開力強化事業」への申請を進めており、採択後はアフリカ諸国の学生受入れを仲介する現地拠点となる予定である。
- 【多様な人材の育成・確保】新たな財源として寄付金（京都大学創立 125 周年記念事業）を用いた若手研究者向けの支援策について検討を開始した。プロボストオフィスと連携し、若手研究者の状況及びその支援における学内外の施策を調査した。資金を運用する渉外課と協働で、エビデンスに基づいた新たな学内ファンドの設計・企画に着手している。
- 【産官学共創の加速】学内連携組織「オープンイノベーション機構」との協働を開始し、大型外部資金獲得のための活動を推進した。「オープンイノベーション機構」を産学連携特区として位置づけ、産学共同研究を実施する研究者へのインセンティブ制度の検討を開始した。産学連携経費の現状を調査し、大学の経営基盤強化に向けて間接経費率見直しを実施（令和3年度より変更決定）している。

将来構想 2 【URA が定着し経営を支える大学】

① 令和元年度フォローアップ結果への対応状況

大学の経営・IR 機能への URA による支援を着実に前進。URA 雇用の自主財源化を拡大し無期雇用人数をさらに拡充した。特に令和元年度からは寄付金を用いた自主財源化の検討を開始している。

② 現状の分析と取組への反映状況

- 【エビデンスに基づく戦略的運営】大学運営の戦略・企画調整のための戦略調整会議（カウンスル）により、トップダウンの方針とボトムアップの意思を調整している。戦略調整会議をサポートするプロボストオフィスに URA が兼務している。特に令和元年度からは全部局にエフォート（実態と理想）調査を実施し「大学及び各部局の教育研究のあるべき将来像」の検討に向けた調査報告書を作成。第四期中期目標・中期計画の策定に向けた議論の土台（evidence）を整えている。
- 【エビデンスに基づく戦略的運営】エビデンスベースの適切な大学運営に資するよう IR 活動を継続的に実施した。各研究科長へ IR データの分析結果を説明し部局運営を支援するほか、令和元年度からは世界ランキング等の結果も部局にフィードバックし、部局経営への活用を促進している。
- 【学内 URA の定着に向けた取組強化】更なる定着化を目指し、自主財源雇用の URA に対して勤務

評定を踏まえた無期雇用化をさらに拡充している。

将来構想3【日本のURAシステムの先導的モデル大学】

① 令和元年度フォローアップ結果への対応状況

- 日本のURAシステムの先導的モデル大学になるべくURAの育成を着実に推進している。また、取り組みの成果や知見を学内外へ幅広く展開している。

② 現状の分析と取組への反映状況

- 【国内URA制度定着への貢献】独自に開発した京大URA育成カリキュラムを本学URAに対して継続実施した。特にLevel2では対象者を学内他部局（WPI等）のURA関連職にも拡大し、研究支援プログラムの企画・運営を担うリーダーを幅広く養成している。
- 【国内URA制度定着への貢献】2019年度より文部科学省委託事業「リサーチ・アドミニストレーターに係る質保証制度の構築に向けた調査研究」において関連団体・他大学URAと協働。URAの研修カリキュラム教材の開発において本学のURAが中心的な役割を果たし、本事業の成果を展開している。
- 【国内URA制度定着への貢献】本事業の開始から7年が経過してURAが研究者に対して提供する支援メニューが多様化した。事業開始当初のWEBサイトではそれらの全てを研究者に対して十分に説明することが難しくなっていた。そこで全支援メニューを再整理し、それらをもとにWEBサイトを全面リニューアルした。研究者がよりアクセスしやすい環境を提供している（<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/>）。
- 【国内URA制度定着への貢献】WEBサイトや独自のSNS（Facebook・Twitter）を用いて、URAの活動や支援情報を継続的に発信した。アクセス解析により現状を分析。恒常的な情報の発信により、Facebookのフォロワーは1000人を越え、より効率的に情報を届けるプラットフォームとなっている。

ロジックツリー・ロードマップの利活用・横展開状況

- ロジックツリー・ロードマップに基づいて、本学URAが支援プログラムを開発している。起案時にはプログラム毎にロジックモデルを作成し、四半期毎に進捗報告会を実施している。加えて、このロジックモデルを活用した支援プログラムのPDCAサイクルを踏まえて、ロジックツリー・ロードマップを見直しを行っている。
- ロジックモデルは、京大URA育成カリキュラムLevel2の中で作成方法とその活用について演習を通じて細かく指導している。URAだけでなく、学内他部局の事務職員・URA関連職にも紹介し、学内で展開する取組を推進した。特に2019年度からは、国際戦略本部員を兼任するURAがロジックツリー・ロードマップを念頭に、京都大学と海外の大学との「戦略的パートナーシップ校」を認定する全体事業及び、戦略的パートナーシップ校である国立台湾大学との個別の交流プログラムを設計する過程でロジックモデルを活用し、学内の国際交流事業の高度化に努めた。それにより、国際関係の項目に対し、将来目標を達成するためのKPIの設定経緯と指標についても、関係者間での共有が促進された。

特筆すべき事項（定性的な現状・取組状況等）

【自己点検の実施】

- 令和元年度末に本事業の自己点検を行った。京都大学では本事業の中間評価（平成 28 年度までの実績）において S 評価をいただいているが、今回の自己点検ではその後の平成 29 年度から令和元年度までの取り組み及びその成果を振り返った。また各部署（研究科長・研究所長）に実施したヒアリング結果をもとに URA への期待と課題（業務見直しの観点）を整理し、これらをもとに、本事業における各活動の「今後のあるべき姿」を策定した。これらは本学執行部及び各部署と共有している。

【コロナ禍への対応】

- 本学の国際交流活動再開の検討と学内部局への海外の動向について情報共有を行うため、URA が ASEAN 地域及び欧州地域の主たる大学の ①コロナ禍における大学の活動状況、②オンライン等を活用した国際交流の状況、③物理的な国際交流再開の目途、について情報収集・整理を行った。それらを全学の国際化推進委員会で報告した。そして、コロナ禍における研究室の運営に関する情報（対応準備、研究機器や学生等の管理）を整理し WEB サイトを通じて提供している。また本学の全学海外拠点の活動再開等に向けて URA が海外拠点運営の担当メンバーとして拠点長・事務職員らと情報収集や今後の見通しについて協議を進めている。
- 従来、オフラインで実施していた研究者に対する説明会やレクチャーを Webinar (オンラインによるセミナー形式) に切り替える方針とした。全教職員に zoom のアカウントを配布し、URA 組織にも必要な周辺環境を整えた上で実施した。結果的に、説明会等をオンライン化することで遠隔のキャンパスや学外に居る研究者も参加可能となり、参加者が顕著に増加した。情報提供／周知の観点では非常に良い効果を生むこととなった。また、そのオンラインを活用した説明会運営等のノウハウが URA に蓄積されつつあり、研究活動のオンライン化の相談にも随時対応している。

【参考】論文の質に係る指標について

	Scopus			WoS		
	2013-2017 平均	2014-2018 平均	2015-2019 平均	2013-2017 平均	2014-2018 平均	2015-2019 平均
国際共著論文率	31.5%	32.8%	34.0%	32.6%	34.2%	35.5%
産学共著論文率	6.1%	6.2%	6.3%	4.3%	4.3%	4.3%
Top10%論文率	12.1%	12.2%	12.0%	13.4%	13.4%	13.3%

※2020/9/1 時点

将来構想

事業終了までのアウトカム
(2021年度-2022年度)

中間的なアウトカム
(2019年度-2020年度)

アウトプット
(2020年度の取組)

アウトプット
(2019年度の取組)

アウトプット
(2018年度の取組)

越境する「知」
「人」を生み出し
循環させる大学

新たな学術領域の創成

指標(1)	国際・学際・産学融合プロジェクト実施数
指標(2)	新規大型プロジェクト代表者数
指標(3)	国際的に評価の高いジャーナル(Top5%)への掲載論文数
指標(4)	人文・社会科学の未来形に関する大綱策定・発信

新たな学術領域の創成に向けた取組の強化

指標①	新規融合研究拠点/ユニット等の設置状況
指標②	人社会系を中心とするシンポジウム等の企画・開催状況
指標③	研究データオープン化推進状況

研究成果の発信支援(研究成果のWEB・メディア発信、海外向け発信媒体の制作)

「国民との科学技術対話」活動支援

融合チーム研究プログラム(SPIRITS)【国際型】【学際型】【産官学共創型】の企画・運営・改善

分野横断研究の土壌を醸成するプラットフォーム構築事業の企画・運営・改善

ライトユニットの設置と運営

人文社会科学系の研究力強化のための学内ファンドの企画および成果発信イベントの企画・開催

研究データマネジメントワークショップの開催、研究データ管理サービスの実行提供

研究成果の発信支援(研究成果のWEB・メディア発信、海外向け発信媒体の制作)

「国民との科学技術対話」活動支援

融合チーム研究プログラム(SPIRITS)【国際型】【学際型】【産官学共創型】の企画・運営・改善

分野横断研究の土壌を醸成するプラットフォーム構築事業の企画・運営・改善

萌芽的な融合研究ユニットの立ち上げを可能にするライトユニット制度の創設

人文社会科学系の研究力強化のための学内ファンドの企画および成果発信イベントの企画・開催

研究データのオープン化のための第2回調査の実施、オープンデータ化ワークフローの作成

研究成果の発信支援(研究成果のWEB・メディア発信、海外向け発信媒体の制作)

「国民との科学技術対話」活動支援

融合チーム研究プログラム(SPIRITS)【国際型】【学際型】【産官学共創型】の企画・運営

分野横断研究の土壌を醸成するプラットフォーム構築事業の企画・運営

自治体などと協働的に未来社会と学術研究・科学技術の関係性を考えるための機会創出支援

人文社会科学系の研究力強化施策の実施および新たな成果発信の方策の検討

研究データのオープン化のための先導調査

国際協働の深化

指標(5)	国際化推進支援のための海外拠点等設置数
指標(6)	学術交流協定の締結数
指標(7)	国際共著論文数
指標(8)	On-site Laboratoryの設置状況

国際協働を深化する支援体制の構築

指標④	URAが参画する学全的な国際化推進業務体制
-----	-----------------------

WPI拠点ノウハウに基づく拠点形成支援と国際アウトリーチ活動

海外大学とのMOU締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップ構築事業の企画・実施

欧州・ASEAN拠点へのURA派遣・駐在、日欧ASEANの三種連携機能の構築、ASEAN拠点についてはタイ政府よりNGO法人格を取得

北米拠点およびアフリカオフィスの運営支援

研究成果/研究資源の海外発信強化支援

海外研究ファンド獲得支援の拡充

On-site Laboratoryの設置と運営支援窓口の運営

WPI拠点ノウハウに基づく拠点形成支援と国際アウトリーチ活動

海外大学とのMOU締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップ構築支援

欧州・ASEAN拠点へのURA派遣・駐在、日欧ASEANの三種連携機能の構築、ASEAN拠点についてはタイ政府よりNGO法人格を取得

北米、アフリカ等の海外新拠点の設置支援

研究成果/研究資源の海外発信強化支援

海外研究ファンド獲得支援体制構築

On-site Laboratoryの設置と運営支援窓口の構築

WPI拠点ノウハウに基づく拠点形成支援と国際アウトリーチ活動

海外大学とのMOU締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップ構築支援

欧州・ASEAN拠点へのURA派遣・駐在

北米、アフリカ等の海外新拠点の設置支援

研究成果/研究資源の海外発信強化支援

海外研究ファンド獲得支援体制構築

On-site Laboratoryの構築支援

多様な人材の育成・確保

指標(9)	研究環境改善・キャリア形成の支援プログラム拡充
指標(10)	多様な人材の確保・育成状況

多様な人材育成・確保に向けた環境改善

指標⑤	外国人研究者支援体制の構築
指標⑥	国際アドミッション支援オフィスの設置
指標⑦	若手教員割合に関する目標達成に向けた取組方策の策定
指標⑧	博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)支援体制の再構成を踏まえた最適化
指標⑨	博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)支援

外国人研究者支援(外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワーク等)の体制強化と機能の深化

博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)の研究環境の改善施策(卓越大学院、OPERAプログラム等)を通じた産学連携による若手支援等も含む)の実施、関連する調査分析・報告

「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」(L-INSIGHT)の企画・運営支援

若手・中堅研究者をターゲットとする学内ファンドの企画・運営

学術特別研究員申請支援(説明会・模擬ヒアリング等)の体系化・効率化

京大創立125周年記念における寄附を利用した学内ファンドの企画・運営

博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)向け支援活動の実施(セミナーの実施、メーリングリストによる情報配信)

外国人研究者支援(外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワーク等)の体制強化と機能の深化

博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)の研究環境の改善施策(卓越大学院、OPERAプログラム等)を通じた産学連携による若手支援等も含む)の実施、関連する調査分析・報告

「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」(L-INSIGHT)の企画・運営支援

若手・中堅研究者をターゲットとする学内ファンドの企画・運営

学術特別研究員申請支援(説明会・模擬ヒアリング等)の体系化・効率化

博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)向け支援活動の実施(セミナーの実施、メーリングリストによる情報配信)

外国人研究者支援(外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワーク等)の体制構築

次世代研究者の研究環境改善施策の実施および研究キャリア形成支援

若手・中堅研究者をターゲットとする学内ファンドの企画・運営

学術特別研究員申請支援(説明会・模擬ヒアリング等)の体系化・効率化

産官学共創の加速

指標(11)	包括連携を含む大型共同研究件数の増加状況
--------	----------------------

産官学共創の加速に向けた組織整備

指標⑩	事業子会社を含む支援組織の全体最適化
-----	--------------------

産官学連携本部を中心とする支援体制の強化および新たな間接経費率設定による大学基盤強化

研究シーズのライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営

オープンイノベーション機構の設置および事業子会社、学術研究支援室、産官学連携推進本部の連携強化

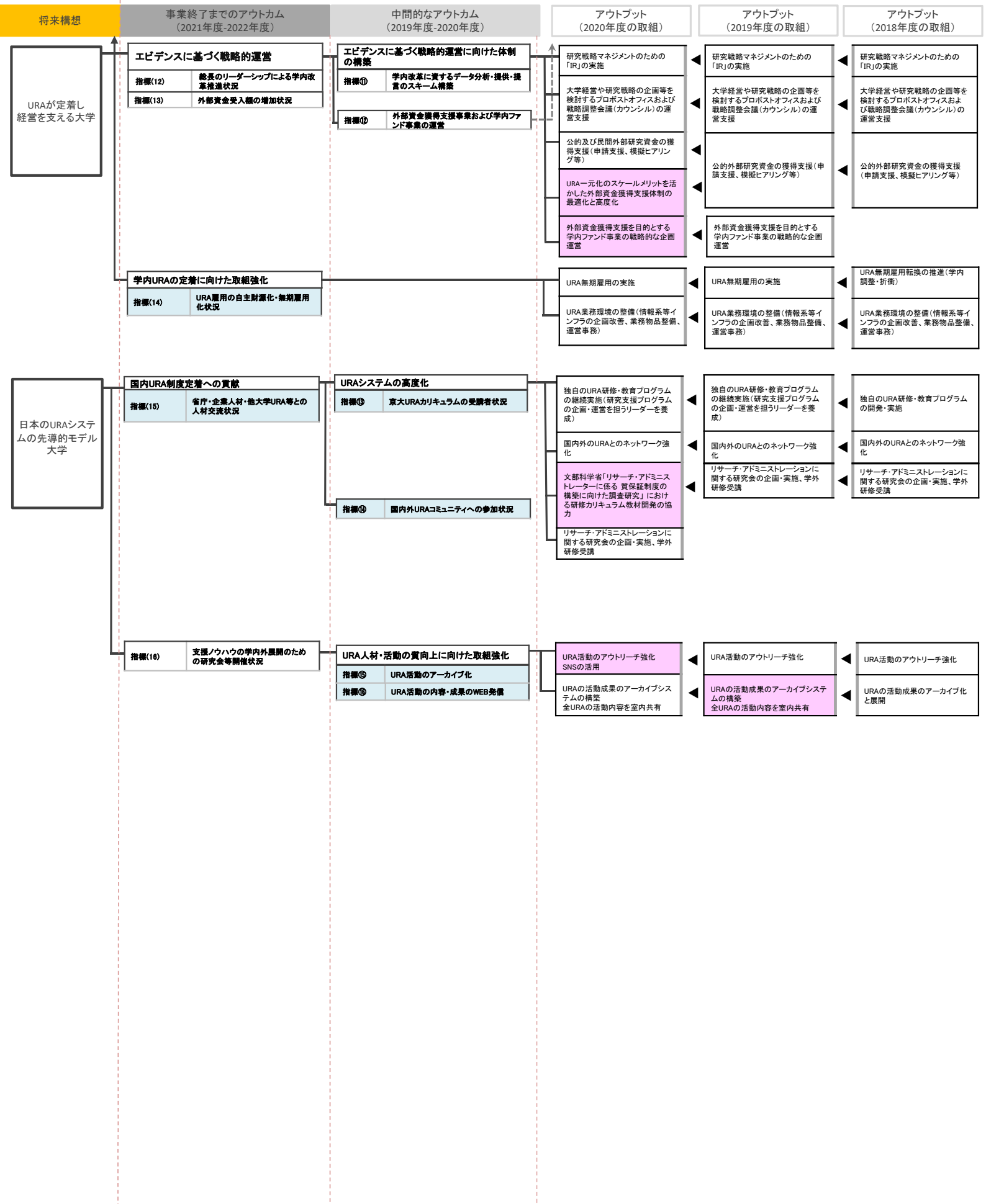
研究シーズのライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営

事業子会社、学術研究支援室、産官学連携推進本部の連携による共同研究等の推進

研究シーズ・産学連携事例のライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営

※ 本事業による取組の効果(他の事業等による影響を受けない)が検証可能である指標

※ 前年度の取組を発展させた繋がりのある取組



※ 本事業による取組の効果(他の事業等による影響を受けない)が検証可能である指標

※ 前年度の取組を発展させた繋がりのある取組

京都大学「研究大学強化促進事業」後期ロードマップ

(1) 事業実施計画

年度		2018	2019	2020	2021	2022	2023		
将来 構想	事業終了までの アウトカム	中間的なアウトカム							
		アウトプット							
新たな学術領域 の創成	新たな学術領域 の創成	融合チーム研究プログラム(SPIRITS)【国際型】【学際型】【産官学共創型】の企画・運営							
		分野横断研究の土壌を醸成するプラットフォーム構築事業の企画・運営							
			萌芽的な融合研究 ユニットの立ち上げ を可能にするライト ユニット制度の創設	ライトユニットの設置と運営					
		自治体などと俯瞰的に未来社会と学術研究・科学技術の関係性を考えるための機会創出支援							
		WPI 拠点ノウハウに基づく拠点形成支援と国際アウトリーチ活動							
			人文社会科学系の研究力強化施策の実施および新たな成果発信方策の検討	人文社会科学系の研究力強化のための学内ファンドの企画および成果発信イベントの企画・開催		人文社会科学系の研究力強化支援策の実施および新たな成果発信			
			研究データのオープン化のための先導調査	研究データのオープン化のための第2回調査を実施。オープンデータ化ワークフローの作成	研究データマネジメントワークショップの開催、研究データ管理サービスの試行提供				
			指標①新規融合研究拠点/ユニット等の設置状況	新規融合研究拠点/ユニット等の設置状況					
			指標②人社系を中心とするシンポジウム等の企画・開催状況	2回/年					
			指標③研究データオープン化推進状況			研究データのオープン化の試行			
		研究成果の発信支援(研究成果のWEB・メディア発信、海外向け発信媒体の制作)							
		「国民との科学・技術対話」活動支援							
			指標(1) 国際・学際・産学融合研究プロジェクト実施数					200件(2013年度以降累積)	
			指標(2) 新規大型プロジェクト代表者数					300人(2013年度以降累積)	
			指標(3) 国際的に評価の高いジャーナル(Top5%)への掲載論文数					1,000篇/年	
	指標(4) 人文・社会科学の未来形に関する大綱策定・発信					大綱の策定と研究成果の国内外発信			
越境する「知」人を生み出し循環させる大学	国際協働の深化	海外大学とのMOU締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップ構築支援							
			欧州・ASEAN拠点へのURA派遣・駐在	欧州・ASEAN拠点へのURA派遣・駐在。 日欧ASEANの三極連携機能の構築。 ASEAN拠点についてはタイ政府よりNGO法人格を取得		欧州・ASEAN拠点へのURA派遣・駐在。 日欧ASEANの三極連携機能の構築。ASEAN拠点(NGO法人格取得済)の運営の実施			
			北米、アフリカ等の海外新拠点の設置支援	北米拠点およびアフリカオフィスの運営支援					
		研究成果/研究資源の海外発信強化支援							
		海外研究ファンド獲得支援体制構築			海外研究ファンド獲得支援の拡充				
			On-site Laboratoryの構築支援	On-site Laboratoryの設置と運営支援窓口の構築	On-site Laboratoryの設置と運営支援窓口の運営				
			指標④URAが参画する全学的な国際化推進業務体制			URAが参画する全学的な国際化推進業務体制と組織の整備			
			指標(5) 国際化推進支援のための海外拠点等設置数					5ヶ所	
			指標(6) 学術交流協定の締結数					200件	
			指標(7) 国際共著論文数					2,900本	
	指標(8) On-site Laboratoryの設置状況					On-site Laboratoryの設置5件			
多様な人材の育成・確保	多様な人材育成・確保に向けた環境改善	外国人研究者支援(外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワーク)の体制構築		外国人研究者支援(外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワーク等)の体制強化と機能の深深化		外国人研究者支援の継続			
		博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)の研究環境改善施策の実施および研究キャリア形成支援							
		若手・中堅研究者をターゲットとする学内ファンドの企画・運営							
			指標⑤外国人研究者支援体制の構築			外国人研究者支援プログラムの体系化			
			指標⑥国際アドミッション支援オフィスの設置			制度設計完了			
	指標⑦若手教員割合に関する目標達成に向けた取組方策の策定			方策案の策定					

	指標⑧博士課程人材を含む次世代研究者(ECR) 支援体制の再構成を踏まえた最適化	次世代研究者の研究環境改善施策の実施および研究キャリア形成支援	博士課程人材を含む次世代研究者(ECR) の研究環境の改善施策および研究キャリア形成支援(卓越大学院、 OPERA プログラム等を通じた産学連携による若手支援等も含む) の実施、関連する調査分析・報告					
	指標⑨博士課程人材を含む次世代研究者(ECR) 支援			「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム」(L-INSIGHT) の企画・運営支援				
				学振特別研究員申請支援(説明会・模擬ヒアリング等) の体系化・効率化				
				京大創立 125 周年記念における寄附を利用した新学内ファンドの企画・運営				
			博士課程人材を含む次世代研究者(ECR) 向け支援活動の実施(セミナーの実施、メーリングリストによる情報配信)	博士課程人材を含む次世代研究者(ECR) 向け支援活動の実施(次世代研究者支援ポータルサイト運用、セミナーの実施、メーリングリストによる情報配信)				
	指標(9) 研究環境改善・キャリア形成の支援プログラム拡充					支援プログラムの自主財源運営化		
	指標(10) 多様な人材の確保・育成状況				留学生数通期 3,450 人	テニュアトラック教員通算 40 人		
						外国人教員等数 500 人		
産官学共創の加速	産官学共創の加速に向けた組織整備	事業子会社、学術研究支援室、産官学連携推進本部の連携による共同研究等の推進	オープンイノベーション機構の設置および事業子会社、学術研究支援室、産官学連携推進本部の連携強化	産官学連携本部を中心とする支援体制の強化および新たな間接経費率設定による大学基盤強化				
	指標⑩事業子会社を含む支援組織の全体最適化			オープンイノベーションを推進する新組織整備				
		研究シーズ・産学連携事例のライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営	研究シーズのライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営					
指標(11) 包括連携を含む大型共同研究件数の増加状況						20 件(年間契約件数)		
URA が定着し経営を支える大学	エビデンスに基づく戦略的運営	エビデンスに基づく戦略的運営に向けた体制の構築	研究戦略マネジメントのための「IR」の実施					
			大学経営や研究戦略の企画等を検討するプロボストオフィスおよび戦略調整会議(カウンスル)の運営支援					
			公的外部研究資金の獲得支援(申請支援、模擬ヒアリング等)	公的および民間外部研究資金の獲得支援(申請支援、模擬ヒアリング等)				
	指標⑪学内改革に資するデータ分析・提供・提言のスキーム構築			データ分析・提供・提言スキームの確立				
	指標⑫外部資金獲得支援事業および学内ファンド事業の運営			外部資金獲得支援を目的とする学内ファンド事業の戦略的な企画運営				
指標(12) 総長のリーダーシップによる学内改革推進状況						プロボストとカウンスルを中心とする大学構想実現のための調整スキーム確立		
指標(13) 外部資金受入額の増加状況					外部資金受入額 130 億円増(2012 年度比)			
学内 URA の定着に向けた取組強化	URA 無期雇用転換の推進(学内調整・折衝)	URA 無期雇用の実施	URA 業務環境の整備(情報系等インフラの企画改善、業務物品整備、運営事務)					
指標(14) URA 雇用の自主財源化・無期雇用化状況		URA 無期雇用の実施				URA 雇用費用の自主財源割合 80%		
						無期雇用化 URA 数 25 人		
日本の URA システムの先導的モデル大学	URA システムの高度化	独自の URA 研修・教育プログラムの開発・実施	独自の URA 研修・教育プログラムの継続実施(研究支援プログラムの企画・運営を担うリーダーを養成)	独自の URA 研修・教育プログラムの実施				
		国内外の URA とのネットワーク強化						
	国内 URA 制度定着への貢献	指標⑬京大 URA カリキュラムの受講者状況			文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターに係る 質保証制度の構築に向けた調査研究」における研修カリキュラム教材開発の協力			
		指標⑭国内外 URA コミュニティへの参加状況			受講者数延べ 90 人(2013 年度以降累積)			
					参加者数延べ 100 人(2017 年以降累積)			
	URA 人材・活動の質向上に向けた取組強化	リサーチ・アドミニストレーションに関する研究会の企画・実施、学外研修受講	URA 活動のアウトリーチ強化	URA 活動のアウトリーチ強化	SNS の活用			
		URA の活動成果のアーカイブ化と展開	URA の活動成果のアーカイブシステムの構築	全 URA の活動内容を室内共有				
	指標⑮ URA 活動のアーカイブ化			アーカイブシステムの構築				
指標⑯ URA 活動の内容・成果の WEB 発信			活動内容・成果コンテンツ発信 200 件(2018 年度以降累積)					
指標(15) 省庁・企業人材・他大学 URA 等との人材交流状況						省庁・企業・他大学等との人材交流の実施		
指標(16) 支援ノウハウの学内外展開のための研究会等開催状況						研究会等開催数 25 件(2017 年以降累積)		